



夏に流行る感染症



感染症の中でも、とくに5月～8月に流行る感染症にはどのようなものがあるでしょうか？代表的なものは食中毒ですが、今回はウイルスが原因の感染症についてお話しします。

感染症とは

ウイルスや細菌、真菌、微生物などが皮膚や粘膜などから体内に侵入して増殖し、いろいろな症状を起こす病気のことです。ワクチンや抗生物質で予防、治療できる一方で、近年は新種の感染症などの流行もあります。

●手足口病

感染してから3～5日後に、手足の水疱や口内炎ができる夏風邪の一種です。熱が出ることもありますが、あまり高熱にならないことがほとんどです。長引くことはなく、数日間のうちに治る病気です。しかし、まれにですが髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経症の合併症などを引き起こす割合が高いため注意が必要です。

●リンゴ病

正式名称は**伝染性紅斑**といいます。子どもが感染すると、両頬が赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれていますが、実は大人も感染し、日常生活に支障をきたすほどの痛みが襲う事があります。

約4日～10日ほどの潜伏期間を経て発症、最初は高熱が3日ほど続き強い倦怠感が出現します。これは風邪と間違える事も多い症状です。倦怠感が1週間ほど続いたあと、小さな赤い斑点が顔や手、腕、太ももなどにでき始め2～3日で一面を覆うようにまだらにできます。この発疹は約10日ほど続きます。(短い人で3日、長い人で3週間くらい続くこともあります。)

●ヘルパンギーナ

特徴的な症状は突然の高熱(38度～40度)、口内炎や水疱ができる、喉や口蓋垂(のどちんこ)に炎症が起こることです。突然の発熱とともに喉の奥の方が赤くなり、炎症を起こします。ほとんどの場合、2～3日以内には熱が下がりますが、喉の痛みがひどく、食事が呑み込めないこともあります。

他、倦怠感や関節の痛みが出たり、発熱の刺激により6歳未満では熱性痙攣をおこしてしまったりする場合があります。首の痛み、頭痛に加えて吐き気・嘔吐の症状がみられた場合は髄膜炎を疑ってください。

子供に多い病気ですが、大人が感染する場合は抵抗力が落ちている時と考えられます。子どもから感染することが多く、熱が39度を超えて重症化することもあるため十分に注意して下さい。

●風疹

発疹が胸と顔から広がり、リンパ腺が腫れるのが特徴。多少の熱が伴うが、4～5日で症状はひいていき2週間ほどで感染期間が終わる。



家庭でしてほしい予防対策

手洗いは念入りに、手首まで洗うこと。体の免疫力を高めておくことも予防のポイント。免疫細胞を強化するビタミンA、C、E、腸を元気にする乳酸菌や食物繊維などを意識してとるようにしてください。

<ECBO検査について>

簡単に短時間でご自身の血圧や心電図などが測定できる**ECBO測定器**を導入しております。

1回100円でいつでも気軽に測定でき、測定結果は印刷し、お持ち帰りいただけます。

どうぞ日頃の健康管理や疾患の早期発見、治療等にご利用くださいませ。

【測定項目】血圧・脈圧・脈拍数・体脂肪率・体水分量・SpO2(血中の酸素飽和度)・心電図など

